

aiimeguyuu さんの体験記第 1 1 話です。

夜になっても寝られない。

処方された薬は 6 種類。ワイパックス、ドグマチール、パキシル、(精神安定剤)、ガスモチン (胃薬)、マイスリー、ハルシオン (睡眠導入剤)。

TV を見たり、ネットサーフィンをしたりして眠くなるのを待つ。

1 時、2 時、、午前様になってもまったく眠くならない。

布団に入ってみる。目はぱっちりと覚めている。

それでも小一時間くらいごろごろしていると、いつのまにか眠っているようだ。

こんな調子なので朝は全く起きれない。

僕の声で朝が来たことはわかるが、体が鉛のように重くて頭もまだ夢心地だ。

母が朝食を作り、僕のミルクを作って家事を済ませ、

私の寝ている部屋から洗濯物を干すためカーテンを開けて、少し目を覚ます。

それでも最初 2、3 ヶ月は本当に体が重くてしんどく、寝てばかりいた。

昼も近くなって起き上がる。

朝とも昼ともいえない食事をお腹もすかないけどとる。

新聞は不幸な記事が多くて見る気になれない。

活字も目に入ってこない。

少し TV を見て、また布団に戻る。

母が僕を連れて公園へ散歩に出る。

誰もいなくなった家に静けさが漂う。少しほっとする。

僕の声がするだけで耳に入るし、なんか疲れる。

窓越しに冬の太陽を浴びると気持ちいい。今は 2 月。

病院には 2 週間に 1 回通うことになった。

診察といっても今の体調を聞かれ、何か言いたいことはないかと聞かれるだけ。

カウンセリングや心理療法をしてくれるわけでもない。

ただ薬を処方するだけ。

こんなんで本当に良くなるのか。そもそも私は病気なのか。

ただ怠け者になっているだけじゃないのか。

そんな愚痴を先生にぶつけてみる。

でも、怠け者じゃない。脳が疲れてるんだから休ませてあげなさい。

休養と薬が本当に少しずつ少しずつたまねぎの薄皮をはがすように

体を回復してくれる。と言う。

心が苦しく悲観的な考えしか思いつかないので、

先生の言葉は全く受け入れられない。
もう一生このままなんじゃないだろうか。

(続く)